

地下スペースの有効活用

< 公園緑地による都市機能の向上 >

私は、地下に多くのスペースが余っていると考え今回の地下に公園緑地を造る計画を提案しました。『癒し』が求められている今の時代には、公園が重要な役割を果たすと思います。公園の持つ様々な機能、効果を都市計画に活かせれば良いと思い、今回、テーマとして考えました。

今回、私が一番に考えたことは、今の時代に使える土地があるか、ということです。開発を続けてきた結果として、新しく使える土地がなくなりつつあります。何かを壊して、一から創るのは難しいと私は考えました。そこで、無駄な土地、利用できるスペースはないのかと考えたところ、地下という空間に着目してみようと思いました。

地下のイメージとして、暗いなどといった陰の感じが私にはありました。また、地下を掘り整備することは難しいかもしれない、しかし、そういったことをクリアーしていけば、都市の機能が大きく変化するだろうと考えました。

次に地下に何を造るかを考えたところ、都市の中心部には大きな公園が必要だと私は考えました。何故、公園か？公園に悪いイメージを持つ人はいないと思い、地下の持つ陰のイメージを陽のイメージである公園で打ち消しあうと考えたからです。公園には様々な機能、効果があります。

機能としては、

- (1) 都市環境の向上
- (2) 防災機能の確保
- (3) 公害防止
- (4) レクリエーション需要への対応

効果として、

- (1) 存在効果
- (2) 利用効果

存在効果とは、公園緑地が存在することによって都市機能や都市環境など都市構造上にもたらされる効果の事です。つまり都市形態規制効果、環境衛生効果、防災効果、心理的効果などがあります。

利用効果とは、公園緑地を利用する市民にもたらされる効果の事です。つまり肉体的精神的健康、教養文化的意識の向上、スポーツの習得と技術の向上などがあります。

上記のように公園緑地を造ることによってもたらされる影響は非常に重要なものであり、また公園内の施設を変える事によって、多種多様な使い方が出来ます。

私の考える公園のテーマは『ヒーリング』。都市は活動の場の中心であり、ストレスのたまりやすい場所だと思い、それを癒すことが出来る場があれば都市の機能はさらに

上がると思ったからです。『ヒーリング・ランドスケープ』という言葉があります。その環境に身を置くことによって、心身ともに全人的に癒される空間整備のことです。私の提案したい公園造りは、この考えに基づいています。

では実際にどのような形式の公園にすべきか？公園の種類としては、総合公園（休憩・観賞・散歩・遊戯・運動等総合的な利用を供することを目的とする公園で、レクリエーションの多様化に対処し得るように施設が設けられる。）総合公園ならば、子供から老人までの幅広い世代に対応できると考えられます。また公園内に何を造るかが一番、重要な点だと思います。テーマは『ヒーリング』ですから、自然を多く取り入れたいと思います。私は癒しの効果があるものは、水だと思い、最近マイナスイオン等で注目を集めている滝に近いものを造るのが良いと思いました。水は、公園内で循環できるようにすれば資源の無駄遣いにはならないと思います。また、公園は地下にあります。そこで一番の問題になるのが『光』です。地下は暗いので、電気に頼らなければいけません。しかし、ソーラーエネルギーを電気に変換し使用すれば、環境にやさしく、さらに問題を解決できると思います。しかし、電気に頼りきってしまうのはどこか味気ありません。そこで、可能な限り地上から採光できるような、例えば、地上の道路上の一部に透明で丈夫な板等で光を採取したりは出来ると思います。光をある程度取り入れることが出来れば、そこに緑を育てることは可能だと思います。イメージとしては、森、森林浴の出来る公園を考えました。森林浴では、木と木の隙間からわずかに光がもれます。つまり、私の考えている公園には、まぶしい光は必要ないのです。

私はこの公園を誰にでも楽しんでもらいたいと思っています。子供たちが裸足で遊びまわれるような一画を造ったり、老人や身障者の人が気軽に地下に降りられるように、地下に降りるためのエレベーターを造ったりして全ての人が『ヒーリング』出来る場所になれば、と思います。

また、公園とともに地下駐輪場を設置したいと思います。都市部には多くの放置自転車があります。あまり見ていて気持ちのいいものではありません。それらを収納できる大きなスペースがあれば、放置自転車が減り都市の景観は良い方向に変化するだろうと思います。

さらに、この提案でのメリットは地下の無駄なスペースを有効活用するだけではありません。地下に公園を造ることによって、雨の日でも利用できる場所にあり、それによって、天候を気にすることなく、様々なイベントに対応できます。イベントには人を集める効果があります、それにより、都市は活性化すると思います。

<参考文献>

『最新 都市計画 第3版』

石井一郎・湯沢 昭・亀野辰三・熊野 稔・深井俊英・栗本典彦 著

森北出版株式会社

『安らぎと緑の公園づくり ヒーリング・ランドスケープとホスピタリティ』

浅野房世・三宅よしすけ 著

鹿島出版会